

# 自治医科大学 附属さいたま医療センター

## 病院の概要

- **病床数** 626床
- **医師数（研修医を除く）** 281名（うち指導医数 71名）
- **研修医数** 1年目 28名 2年目 24名
- **研修医の主な出身大学** 日本大学・埼玉医科大学・東京医科大学・東京女子医科大学・秋田大学・新潟大学・金沢大学・獨協医科大学・昭和大学・自治医科大学
- **診療科** 総合診療科 循環器内科 消化器内科 呼吸器内科 内分泌代謝科 血液科 リウマチ膠原病科 腎臓内科 神経内科 小児科 精神科 病理診断科 整形外科 泌尿器科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 救急科 一般・消化器外科 呼吸器外科 心臓血管外科 脳神経外科 皮膚科 リハビリテーション科 麻酔科 放射線科 歯科口腔外科
- **1日平均外来患者数** 1326名
- **1日平均入院患者数** 499名
- **主な認定施設** 労災指定病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救急救命センター



## 研修プログラムの特色

「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標としています。これまでスーパーローテーションに近い多科研修を行ってきましたが、研修が義務化された2004年度以降においても従来の経験を生かし、かつ厚生労働省の基準案に従ったスーパーローテーション方式による臨床研修を行い、これによって幅広い医学知識と技能を有し、深い人間性にもとづいたすぐれた臨床能力を発揮できる医師を養成してきました。

当センターは幸い多くの患者さんに信頼されており、その診療を通して幅広い豊富な臨床経験を積むことができ、かつ総合的な視野に立った医師を養成することが可能です。日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるとともに、医師としての人格を涵養することを目指してプログラムを設定しています。



## プログラム 例 一般プログラム（募集定員24人）内科系志望者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目▶	内科1			内科2			内科3			救急		産婦人科
2年目▶	地域医療	外科		麻酔科		小児科		内科4		選択		

オプションでは精神科、臨床検査科、放射線科、CCU、ICU、各診療科などから自由に選択できます。

## 研修医の処遇

- 給与▶約420万円/年（宿日直手当、期末手当含む）
- 諸手当▶地域手当、医師手当、宿日直手当、期末手当
- 保険▶日本私立学校振興・共済事業団（健康保険・年金）、雇用保険、労災保険
- 勤務時間▶8時30分～17時15分
- 当直▶あり（約4回/月）
- 休暇▶2回/週休2日（土・日）、有給休暇 20日/年
- 宿舎▶あり

## 主な臨床研修協力病院・協力施設

- ・自治医科大学附属病院
- ・さいたま市民医療センター
- ・埼玉県立精神医療センター
- ・埼玉精神神経センター
- ・秩父市立病院
- ・南魚沼市民病院
- ・小鹿野中央病院
- ・JCHOさいたま北部医療センター

## 当院の魅力

### 全てを経験したからこそ理解できる 当センター初期研修の質的な魅力

当センターでの初期研修の特徴として、従来までの総合医療と専門医療の一体化とともに、平成28年4月より救命救急センターが開設され、一次医療から三次医療まで全てを網羅する救急医療が3つ目の柱に加わりました。

総合医療においては、問診から身体診察までの情報で如何に診断に迫れるか、に重きを置いた研修が特徴であり、米国ワシントン州立大学内科名誉教授のFujimoto先生による指導も研修医全員が個別に受ける機会も用意されています。

専門医療は自治医科大学附属病院であることのメリットを最大限に生かした最先端の医療を全ての診療科で経験することができます。

救急医療では救急科研修および救急科当直を経験することにより、一刻を争う診療での“思考過程”や“身のこなし”を経験することになります。

当センターの初期研修プログラムは医師としての最初の2年間に、今は役立つ実感が無くても、将来、必ず役に立つ研修内容を織り込んだものとなっています。かなり忙しい2年間となりますが、全てを経験したからこそ理解できる、質的な魅力を持った初期研修プログラムです。皆さんの研修のバックアップは卒後臨床研修室で担っていきますので安心下さい。来年の春に皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



### 研修責任者から

当センターは開院以来、総合医養成を主眼としたスーパーローテートプログラムを全国でもいち早く取り入れて来ました。一般プログラムの中に、内科・外科・外科系専門診療科・救急の各コースを設け、研修医からの多様なニーズに対応しています。厚生労働省が指定する必修科目（内科、救急、地域医療）に加えて、全コースにおいて、麻酔科と外科を選択必修としています。研修指導は、診療チームの中で、屋根瓦式に実施されます。

当センターの初期研修医は全国から集まっており、いわゆる学閥はありません。総合回診、M&Mカンファレンス、研修医ランチョンセミナーなどを通じて、大切な情報を各研修医間で共有できます。

研修医も参加する研修委員会において、研修内容の改善を検討しています。豊富な経験と業績を持つ教授・准教授スタッフなどの教職員が揃っており、皆さんの研修を支援します。



卒後臨床研修室長  
菅原 奇

### 先輩研修医から

当センターの魅力、それは“距離の近さ”です。都心へのアクセスがいい大宮駅からはバスで10分の近さ。研修医療に至っては病棟へ着くまで頑張れば5分の近さ。そして同期研修医の数も20人台の上、向上心の塊のような人達が全国から集まってきているために支え合う姿勢が自然と生まれ、お互いの距離も近くなります。また、上級医も面倒見がよく、コメディカルとも一緒に勉強会を開催し、患者さんに対しての向き合い方を活発に議論することもあり、こちらも非常に距離が近くなります。

この“距離の近さ”は、当センターにおいて最も重要なウェイトを占めていると思います。

ぜひ一度、見学に来てみてください。医者の一歩目を踏み出すにふさわしい病院です。



研修医2年目  
遠藤 成晃

### 女性医師支援コーナー

次世代を担う医師のキャリア形成が出産・育児等により中断されることがないように就業継続のための短時間勤務制度があります。全職員対象の育児短時間勤務（所定勤務時間内において30分単位で2時間まで勤務時間を短縮）と、医師対象の短時間勤務（週20時間勤務。午前・午後をそれぞれ4時間とし、週20時間になるよう組合せ）があります。平成29年11月1日現在も10名の女性医師が短時間勤務制度を利用しています。また、職員の子の育児を支援するため、院内保育所、病児保育所を設けています。更に、育児中は（申請により）当直を免除するなど配慮しています。

### 連絡先 自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室

〒330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847

TEL 048-648-5225(直通) FAX 048-648-5166

E-mail rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

URL http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html

アクセス JR大宮駅東口からバスで約10分

### 病院見学、その他イベント・説明会等の情報

- レジナビフェアに埼玉県ブースで出展しています(3月、7月)。
- 研修内容説明会を開催しています(7・8月)。
- 病院見学は随時受け付けています。当センターホームページ(卒後臨床研修室のページ)をご覧ください。